地歴公民(世界史)　　慶應義塾大学　文学部　1/2

＜全体分析＞

試験時間　60 分

解答形式

記述式・選択式・論述式

分量・難易(前年比較)

分量　(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加))

難易　(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

本学部では，記述式・選択式の設問が 50 問出題されるのが通例であったが，今年度は従来の記述式・選択式に加えて論述式（40 字）の設問が２問出題された。総設問数は記述式 38 問，選択式２問，論述式２問で合計 42 問であった。分量としては，記述式が 50 問出題された昨年度よりもやや減少したといえる。

「歴史総合」の日本国内に関わる範囲から２問出題されたが，標準的な難易度であった。「世界史探究」の範囲からの設問の難易度は概ね昨年度と同程度であったため，全体の難易度は「変化なし」と判断した。

出題の特徴や昨年度との変更点

上述の通り，論述式の問題が２問出題され，また，昨年度は出題されなかった記号選択問題が出題された。とはいえ，空欄補充と単答形式の記述問題が大部分を占めるという本学部の傾向は維持されている。

新課程を踏まえた出題

「歴史総合」の範囲から，19 世紀末の日本に関する設問と，1930 年前後の日本に関する設問が出題された。

その他トピックス

例年通り，年代を問う設問が複数出題された。本学部で頻出である文化史に関しては，昨年度と同様に５問以下の出題にとどまった。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
Ⅰ	記述式 論述式	【歴史総合】 近現代における東アジア史と西アジア史の共通点	全体を通じて，新科目である歴史総合を強く意識した問題文と出題であった。空欄(A)は富岡製糸場を手がかりに解答する。設問(3)は，ベネズエラがコロンビアから分離独立したことと，同国が産油国であること，という２つの知識を組み合わせる必要がある。設問（ア）は，輸出が振るわなくなった対外的側面と，国内がデフレになった対内的側面に注目する。	標準
Ⅱ	記述式 選択式 論述式	ケルン関連史	空欄(A)を答えるには，ケルンがライン川に面しているという知識が必要。空欄(F)は，文章からアンリ４世の子であることを読み取ってルイ 13 世と判断する。設問(3)と設問(4)は該当する選択肢をすべて選ばせる形式で，また教科書に掲載されている地図や写真にまで注意をはらう必要があり，難問。設問(3)は，ハンザ同盟の活動の中心であった北ドイツの都市を選ぶ。論述式の設問(5)は，問われている内容は平易である。	やや難
Ⅲ	記述式	近現代における国際会議・機構	空欄(A)に関して，ドイツ観念論の哲学者であることと，『永遠平和のために』という著作を手がかりにカントを想起したい。空欄(D)の「エルベ川」は，解答するための手がかりが乏しい。空欄(F)の「万国平和会議」は差が開くところ。空欄(H)に関して，日本が国際連盟からの脱退を通告したのは 1933 年であるが，実際に発効したのは翌々年の 1935 年であり，解答に迷った受験生も多かったであろう。空欄(J)の「経済社会理事会」は，見落としがちなポイントであった。	標準

© 河合塾　2025 年

Ⅳ	記述式	セルジューク朝の歴史	空欄(B)の「マフムード」は細かいが，2017 年にも出題されている。その他の設問は，おおむね平易であった。	やや易

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で，当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

論述式の設問が出題されたため，来年度に向けても論述式の対策が必要になってくるであろう。なお，慶應義塾大学文学部の日本史では論述問題が例年出題されており，世界史においても，新課程の導入にあわせて論述問題の出題が定着することは十分にありうる。また「歴史総合」からの出題に関して，移行期間を終えた来年度からは，出題数が増加する可能性や，難易度が上昇する可能性があるので，「近代化・大衆化・グローバル化」を意識して学習を進めておきたい。「世界史探究」のほうでは，例年出題される年代を問う設問，中国史の漢字，ここ２年出題が少なかった文化史の対策は，怠りなく講じておこう。

© 河合塾　2025 年